

# 地域連携 News

Japanese Red Cross Otsu Hospital

2022  
10  
vol.14

## 着任のご挨拶

令和4年10月1日付けで大津赤十字病院泌尿器科部長に着任しました七里泰正(しちりやすまさ)と申します。近隣の開業医の先生方、協力医療機関様には、前任地の市立大津市民病院でも平成17年からお世話になり、深く感謝申し上げます。これからも大津の地で引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、昭和61年に京都大学を卒業後、京都、倉敷、大阪の市中病院や大学病院で勤務後、平成17年4月1日から令和4年9月30日まで市立大津市民病院で勤務していました。私の専門分野は、腹腔鏡手術とロボット支援手術(ダヴィンチ手術)で、腹腔鏡手術は技術認定医資格を、ロボット支援手術は現在学会で公認されているすべての術式のプロクター資格を有し、腹腔鏡手術は1000例以上、ロボット支援手術は500例以上の経験を積みました。手術に対する思いとして、大学病院や大規模な先進的医療施設に負けることも劣らないレベルの腹腔鏡手術やロボット支援手術を市中病院の身近さで患者さんに提供することを大切にしてきましたので、これから当院でもさらなる研鑽を積み重ねていきたいと思っております。

現在泌尿器科手術は、悪性腫瘍手術を中心に、その多くがロボット支援手術の適応となりました。今後当院でも、現在導入済みの前立腺悪性腫瘍手術、腎悪性腫瘍

手術に加えて、速やかに膀胱悪性腫瘍手術、尿管悪性腫瘍手術、腎盂形成術、(骨盤臓器脱に対する)仙骨隆固定術、の施設基準が獲得できるよう努力させていただこうと思っています。

私は京都市で育ちましたが、そのルーツ(本家)は滋賀県、旧八日市市にあった滋賀県で3番目に古いパン屋さん(七里屋製パン所)で、滋賀県とは縁が深いようです。今回も前勤務先と本院あわせて20年以上大津の地で勤務させていただくことになる予定ですので、この滋賀県との深く長いご縁を大切にさせていただこうと考えております。

60歳を超えても、体を動かす手術のことはまだいけると思っていますが、頭脳的なことは少しビハインドになってきた気がします。それでも50歳を超えてから本格的に取り組んでいるトレイルランニングやultra light trekking/hiking、カヤックで体力だけは維持できていますので、大津市および滋賀県のロボット支援手術や高度先進医療に少しでも貢献できるよう精進したい所存でございます。

第一泌尿器科部長  
七里 泰正

プロフィール 卒年:昭和60年

### 資格等

- ・日本泌尿器科学会泌尿器科専門医・指導医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- ・日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医
- ・手術支援ロボット「da Vinci」術者認定医
- ・ロボット支援手術プロクター  
(根治的前立腺全摘除術・  
腎部分切除術・根治的膀胱全摘除術)



## 着任のご挨拶

令和4年10月1日より、大津赤十字病院第二脳神経外科部長として着任いたしました。皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。前任施設の市立大津市民病院では平成25年から数えて10年もの間、大津市、近隣地域の先生方、患者様の皆様には、たいへんな御高配をいただきました。ここに改めまして感謝申し上げます。これからは、当大津赤十字病院に移り活動を再開いたします。変わらない御指導・御協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

私は、脳神経外科の中でも『脊椎脊髄外科』を専門としております。大阪市出身で平成8年に大阪市立大学医学部を卒業し、京都大学病院脳神経外科(菊池晴彦教授)に入局いたしました。その後は、京都大学同門の脊椎脊髄専門病院で18年間修練を積んできました。大津の地は、黎明期である昭和53年から脊椎脊髄疾患治療に関して発展し、数多くの脊椎脊髄外科Specialistを生んできました。厚生労働省のデータによると本邦では2040年に高齢者のピークを迎え、また脊椎変性疾患の初発年齢として多い50歳前後へ、団塊ジュニアの巨大な人口マスが現在進行形で突入してきています。今後も20年ほどは続々と脊椎脊髄疾患の患者様が増加し続けます。当大津赤十字病院では、そのような社会のニーズに応えるべく近く脊椎脊髄外科学会認定訓練施設をスタートさせ、地域へ貢献できる人材をこれからも輩出し続けます。

実際の診療におきましては、第一脳神経外科と緊密に連携を取りながらこれまでと同様に脳卒中診療、脳外科疾患の治療も継続して行ってまいります。脊椎脊髄治療につきましては、当科の伝統であります低侵襲手術を更に発展させます。具体的には、近年目覚ましい発展を遂げている内視鏡を脊椎手術に取り入れ、対応できる疾患の数を増やしていきたいと考えております。また、年内にも新型のNavigation Systemの導入が決定しており、これまで

と同様に治療困難な脊椎疾患へも対応し、地域の最後の砦となれるように尽力します。

地域連携も私の重要なテーマの一つです。ここ数年来、大津市医師会様とともに、骨粗鬆症による寝たきり予防について連携をとってまいりました。この取り組みは、先述の2040年を迎えるにあたり、大津市の将来にとって大変重要なテーマとなっております。骨粗鬆症の予備軍の見逃しゼロ、骨粗鬆症性骨折の再骨折ゼロ、そして骨粗鬆症による寝たきりゼロを目指して、これからも継続して取り組んでいきたいと思っております。

とはいえ前のめりにならず、足元を固めながら一步一步着実に行動していきたいと思っております。小川修院長先生から辞令を拝命した際『いつも笑顔で、誰にも優しく!』と御指導いただきました。このお言葉を私のスローガンとして大津赤十字病院にて地域医療の貢献に尽力したいと思います。皆様、何卒よろしく御指導のほどお願い申し上げます。

### 第二脳神経外科部長

## 高山 柄哲

#### プロフィール

卒年:平成8年

#### 資格等

- ・日本脳神経外科学会専門医
- ・日本脊髄外科学会指導医・認定医



日本赤十字社 大津赤十字病院 地域医療連携課

〒520-8511 滋賀県大津市長等一丁目1番35号

TEL.077-522-8535(直通) FAX.077-522-4385(直通)

予約受付 月曜日から金曜日(平日) 午前8時30分から午後8時00分まで  
土曜日 午前9時00分から午後1時00分まで

QRコードからホームページが  
ご覧いただけます

<https://www.otsu.jrc.or.jp/>

